

2018年5月22日

川崎市産業振興会館

Rev.0 2018-03-04

10:10-10:50	後藤真太郎	立正大学 地球環境科学部 教授	ドローンによるスマート農業の可能性
M1		<p>博士(工学)東京大学、(株)三菱総合研究所、金沢工業大学を経て現職。 専門は、地理情報システムとリモートセンシングを用いた環境問題の解析・評価とそれを用いた地域連携。 埼玉県GIS普及推進研究会会長、NPO法人GISパートナーシップ代表理事、新しい公共をつくる市民キャビネットスマートICT部会部会長、NPO法人災害支援団体ネットワーク理事、NPO法人基盤地図情報活用研究会理事等を務める。</p>	<p>ドローンによる高分解能のリモートセンシング画像が容易に取得できるようになり、これまで開発されてきた点計測の手法が面的に適用できるようになった。これにより、ドローンの利用が単なる写真撮影にとどまることなく、リモートセンシングの手法を点計測の方法に応用することによって環境の面的な構造を明らかにすることができる。本報告では、こうした技術の農業分野への応用につき、事例を含めて紹介する。</p>
10:50-11:30	関本義秀	東京大学生産技術研究所 准教授	創発的な都市イノベーションを支える情報基盤の取組
M2		<p>2008年4月～2011年3月まで、空間情報科学研究センター(CSIS)内に寄付研究部門「空間情報社会研究イニシアティブ」を立ち上げ活動していました。現在、2011年6月から5か年で「次世代社会基盤情報」寄付研究部門を立ち上げ、活動しています。また、2008年から「人の流れプロジェクト」を主宰しています。 2013年から生産技術研究所に異動しています(社会基盤学専攻やCSISを兼務)。 1973年5月31日 神奈川県生まれ 1997年3月 東京大学工学部土木工学科卒業 2002年3月 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻博士課程修了</p>	<p>近年、都市のビッグデータ、オープンデータ等、様々なデータが得られるようになってきている。こうした中で都市の課題解決につなげる情報基盤の仕組みが重要になってきている。 本講演では、そうした取組についての紹介を行う。</p>
11:20-12:10	島村秀樹	株式会社パスコ 常務取締役	パスコにおける3次元空間情報活用への取り組み
M3		<p>1980年3月千葉大学工学部写真工学専攻修了課程修了。同学科研究生を経て、1981年にパシフィック航業株式会社(現、株式会社パスコ)入社。人工衛星及び航空機M2S等のリモートセンシングの画像解析を中心に業務に従事し、1986年からは、防災地図情報・都市情報・森林情報及び民間向けのGISシステムの開発に携わってきた。博士(工学)。2006年に研究開発センター長を経て、2014年に中央事業部長となり、現在に至る。</p>	<p>近年、ICTの進化にともない経済や社会の在り方が急激に変化している。その潮流の背景には、ビッグデータの活用がある。実際の世界で起きている事象をセンサーやIoTを通じて集めたビッグデータは、未来の社会を切り拓くための革新的なサービスやビジネスモデルを創出しつつある。一方で、私たちの測量業界では、過去から現在に至るまで、世界最先端の計測機器や技術を導入し、現実の空間をセンシングし、膨大なデータを生成してきた実績がある。本講演では、当社が3次元空間情報をどのように収集・利用してきたのかを概観し、これからの安心安全な社会に向けた現在の取り組みについて紹介する。</p>